

比・地滑り

# 心のケア・衛生面課題

## AMDA巡回診療を継続

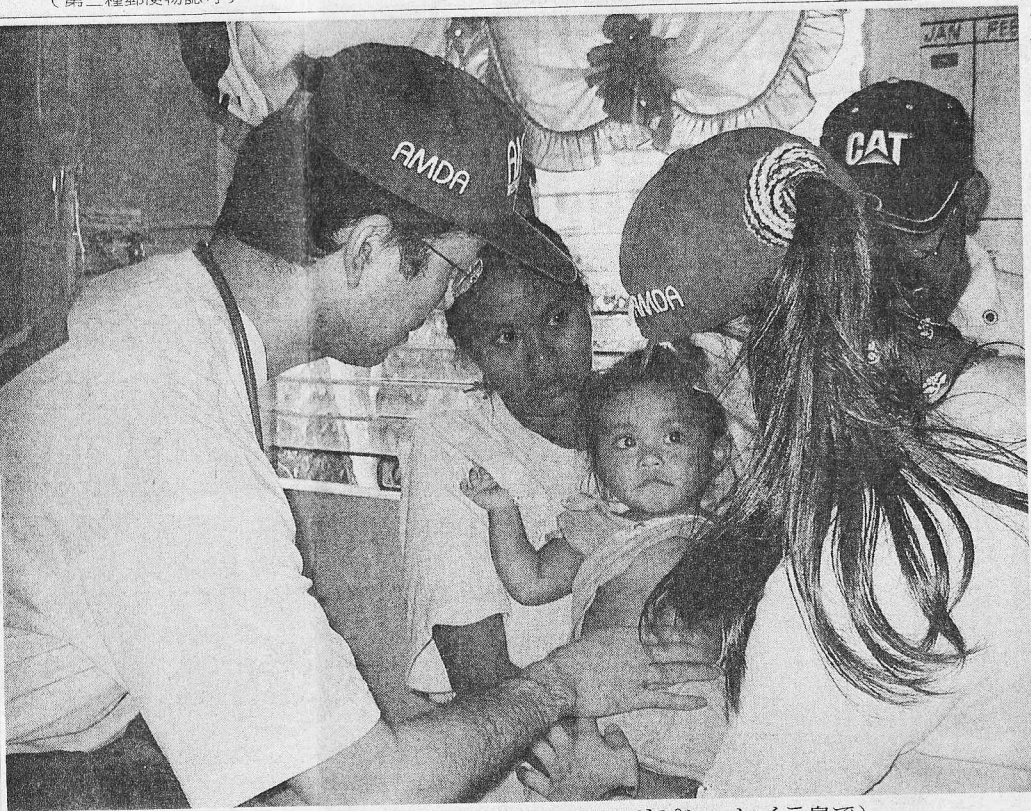
フィリピン・南レイテ州の大規模地滑りの緊急医療支援活動を終え、帰国したNGO「AMDA（アムダ）」の医師や看護師が、岡山市櫛津の本部で会見した。一行が訪れた現地では治療するべき重傷を負った被災者は少なかったが、医師らは肉親を失った遺族が悲しみに暮れているのを多く見たといい、「今後は心のケアが必要」と強調した。

AMDAによると、地滑り人が多く、高校の教室（50現場から南9時の避難所 平方メートル）には約70人が所狭や病院などで2月21～27しと避難し、飲料水の不足日、被災者315人の治療や衛生面の悪化が深刻化しや健康診断を実施。貧しいていた。

藪谷亨医師（36）は、「子どもや兄弟を失い、ストレスで不眠や体調を崩す症状がみられた」と話し、「家や仕事をなくして将来に不安を感じる人や『生き残ってしまった』と思い詰める人もおり、診療では積極的に話しかけるように心がけた」と報告。竹内美妃看護師（34）は「感染症の流行を防ぐために衛生教育も必

要」と指摘した。菅波茂代表（59）は会見後、「フィリピンは宗教心が強く、すでにミサなどが行われ精神的なケアが始まったと聞いている。AMDAでは合同慰霊祭の開催や巡回診療の継続で支援していくつもりだ」と話した。

◇  
AMDAでは引き続き、被災者への救援募金を郵便振替で受け付ける。口座番号は「012500-2140709」で、通信欄には「レイテ島」と記入。



子どもを診察するAMDAの医師ら（フィリピン・レイテ島で）



避難所で行われたAMDAによる健康診断